

数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度説明会 令和6年度申請に係る留意事項

令和6年3月5日

文部科学省 高等教育局 専門教育課

令和6年度申請にあたっての前提

基本的要件

- 正規の教育課程として実施している「**教育プログラム**」
- **1年以上の実績**があること（令和5年度の前期と後期のどちらか、または両方に実績があれば申請可能）

モデルカリキュラム改正との対応関係

- 令和6年度は、旧モデルカリキュラムに準拠した教育プログラムを認定

申請単位

< リテラシーレベル >

- 各機関において **1プログラムのみ**申請可能、**全ての学部・学科に対し、開講**している必要

< 応用基礎レベル >

- (1) 大学等単位 (2) 学部・学科単位の2つの申請単位を設定
- **大学等単位は1プログラムのみ、全ての学部・学科に対し開講**している必要（リテラシーと同様）
- **学部・学科単位は1大学等で複数プログラムの申請が可能**

○ 大学等単位のプログラム・・・大学等の全学生を対象としたプログラム

○ 学部・学科単位のプログラム・・・大学の一部の学部の学生を対象としたプログラム

短大・高専の一部の学科の学生を対象としたプログラム

➡ **大学において学科単位の申請は認められない**

○ 3月4日（月）：**公募開始**

○ **3月5日（火）14時～：説明会（オンライン）**

○ 5月13日（月）：**申請締切 17時厳守**

〔
◆事務局による書類確認
◆有識者会議による審査
〕

申請書類の不備や不明点
について、この期間に問
い合わせを行います

○ 9月頃：認定・選定結果の通知・公表

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 ウェブサイト

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm

実施要綱・申請様式<リテラシーレベル>

本制度に係る実施要綱・申請様式、記載要領等は以下のとおりです。申請に当たっては、各種資料をご確認ください。

令和6年度申請用の様式を公開しました。

- ▶ [実施要綱 \(PDF:124KB\)](#) 
- ▶ [実施要綱細目 \(PDF:501KB\)](#) 
- ▶ [01_申請様式1-4リテラシー \(Excel:46KB\)](#) 
- ▶ [02_申請様式5\(プラス\)リテラシー \(Word:24KB\)](#) 
- ▶ [03_取組概要\(ひな形様式\) \(PowerPoint:48KB\)](#) 
- ▶ [\(記載例\)01_申請様式1-4リテラシー \(Excel:69KB\)](#) 
- ▶ [\(記載例\)02_申請様式5\(プラス\)リテラシー \(Word:27KB\)](#) 
- ▶ [04_リテラシーレベル 記載要領 \(PDF:312KB\)](#) 
- ▶ [05_リテラシーレベル 申請要領 \(PDF:291KB\)](#) 

実施要綱・申請様式<応用基礎レベル>

本制度に係る実施要綱・申請様式、記載要領等は以下のとおりです。申請に当たっては、各種資料をご確認ください。

令和6年度申請用の様式を公開しました。

- ▶ [実施要綱 \(PDF:124KB\)](#) 
- ▶ [実施要綱細目 \(PDF:486KB\)](#) 
- ▶ [01_申請様式1-4 応用基礎 \(Excel:46KB\)](#) 
- ▶ [02_申請様式5\(プラス\)応用基礎\(大学等单位\) \(Word:28KB\)](#) 

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 ウェブサイト

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm

Q&A、お問い合わせ

本制度に係るご質問は、以下の質問受け付けフォームよりお問い合わせください。

[質問受付フォーム](#) 

また、以下に認定制度の申請等にあたってのQ&Aをまとめているのでご覧ください。

- [Q&A\(概要編\) \(PDF:178KB\)](#) 
- [Q & A\(様式編\) \(PDF:235KB\)](#) 
- [申請フローチャート \(PDF:159KB\)](#) 

(1) 必要書類のアップロード

アップロード用URL :

<https://mext.ent.box.com/f/fea60878688a4f5b99b0756e978a057f>

(2) 申請フォーム (Microsoft Forms) の必要事項登録

申請フォームURL : <https://forms.office.com/r/bB9dS4mNyd>

(3) 申請の受領確認メールの受信

翌営業日から起算して7営業日以内に申請の受領確認のメールが届かない場合は文部科学省に電話で連絡すること。(連絡先: 03-6734-4750)

➔ (1) ~ (3) が全て完了しないと、申請は受理されない

申請にあたっては、必ず「申請要領」を確認すること

<リテラシーレベル> 申請様式 1

(様式1) プログラムを構成する授業科目について

- 様式1は修了要件ごとに作成
- 授業科目と5つの審査項目、モデルカリキュラム (2020年4月策定) との関連を整理

大学等名		○○大学		様式1-1	
プログラム名		○○大学リテラシープログラム			
プログラムを構成する授業科目について					
① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違する				
② 対象となる学部・学科名称	文学部、経営学部、国際教養学部				
③ 修了要件	科目aの2単位を取得すること。				
必要最低科目数・単位数	1 科目	2 単位	履修必須の有無	令和8年度までに履修必須とする計画	
④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目					
授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	
科目a	2	○	○	○	

修了要件は具体的に、分かりやすく記載すること

履修者全員が、必要な要素を必ず網羅する修了要件となっていること

修了要件が複数設定されている場合、様式を枝番にして作成

全学で修了要件を1つに統一している場合は「相違しない」
全学として統一の修了要件でない場合は「相違する」を選択

【令和6年度認定より追加】
プログラムを修了するために必要な科目数を記載

プログラムを修了するために必要な単位数を記載

どの学生も卒業するに当たって本プログラムの修了が必須となっているか、または予定があるかを選択

シラバスに記載の単位数と必ず整合させる

プログラムを修了するために履修することが必須の科目は「必須」に○を付すこと

<リテラシーレベル> 5つの審査項目と、モデルカリキュラム（2020.4）の対応箇所

項目	5つの審査項目	モデルカリキュラム（2020.4）対応箇所
項目①	<ul style="list-style-type: none"> ● 数理・データサイエンス・A Iは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。 	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向
項目②	<ul style="list-style-type: none"> ● 数理・データサイエンス・A Iが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。 	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域
項目③	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・A Iは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。 	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場
項目④	<ul style="list-style-type: none"> ● ただし数理・データサイエンス・A Iは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、A I社会原則等）を考慮することが重要であること。 	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項
項目⑤	<ul style="list-style-type: none"> ● 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・A Iの基本的な活用法に関すること。 	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う

認定教育プログラムは「5つの審査項目」と「モデルカリキュラム」の各項目を、
プログラムを構成する授業科目により網羅していることが要件

<リテラシーレベル> 申請様式 1

(様式 1) 【参考】生成AIに関連する授業内容について

- 授業科目に取り入れている、または、取り入れる計画がある場合に、その内容を記載
- 各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定の要件とはならない

【参考】

⑩ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**教理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 教理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

科目aの○○に関する授業の中で、生成AIの◆◆について解説し、……。

科目kの△△に関する授業の中で、生成AIを実際に使用し、……。

<応用基礎レベル> 申請様式 1

(様式1) プログラムを構成する授業科目について

○ プログラムの申請単位を「大学等単位」か「学部・学科単位」より選択

【大学等全体のプログラム】

大学等名	〇〇大学
プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム

修了要件が複数設定されている場合、様式を枝番にして作成

様式1-1

【令和6年度認定より追加】

①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、同じ大学等内で前年度までに認定をうけた「学部・学科」単位のプログラムがある場合、記載要領に沿って、「大学等単位へ拡大」または「新規のプログラムとして申請」のどちらかを選択（詳細は次のスライド）

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位	大学等全体のプログラム	② 既認定プログラムとの関係	大学等単位へ拡大
③ 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違する		
④ 対象となる学部・学科名称	文学部、経営学部、国際教養学部		

リテラシーと同様に、修了要件の設定を「相違する」「相違しない」から選択

【学部・学科単位のプログラム】

大学等名	〇〇大学
プログラム名	〇〇大学応用基礎プログラム(工学部)

学部・学科単位のプログラムの場合、この選択は不要

様式1

学部・学科単位のプログラムの場合、この選択は不要

【令和6年度認定より追加】

プログラム名においてどの学部・学科のプログラムかわかるようにすること

① 申請単位	学部・学科単位のプログラム	② 既認定プログラムとの関係	
③ 教育プログラムの修了要件			
④ 対象となる学部・学科名称	工学部		

「学部・学科単位」の場合、ここに記載できるのは1学部・学科のみ

複数の学部・学科で申請する場合は、個別のプログラムとして申請する必要

(様式 1) プログラムを構成する授業科目について

○ 既認定プログラムとの関係

【大学等全体のプログラム】

① 申請単位	大学等全体のプログラム	② 既認定プログラムとの関係	大学等単位へ拡大
--------	-------------	----------------	----------

<①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、同じ大学等内で前年度までに認定をうけた「学部・学科」単位のプログラムがある場合>

- ◆既に認定を受けている「学部・学科単位プログラム」の対象を大学等単位に拡大し、大学等全体のプログラムとして実施するもの（「学部・学科単位のプログラム」から「大学等単位のプログラム」に移行）
→「大学等単位へ拡大」を選択
- ◆既に認定を受けている「学部・学科単位のプログラム」は当該学部・学科のみで継続し、新たに大学等全体を対象としたプログラムの申請をするもの（当該学部・学科における、双方のプログラムの学修成果や修了要件は異なるものとする）→「新規のプログラムとして申請」を選択

※「新規のプログラムとして申請」の場合、以下の点にご留意ください

- ・当該学部・学科の学生が、複数のプログラムがあることにより不利益にならないようすること
- ・ウェブサイトでの公表において、双方が異なるプログラムであることを明示すること

- ◆どちらの場合にも当てはまらない場合は個別に連絡すること

<上記以外の場合> 記載不要

<応用基礎レベル> 申請様式 1

○ 授業科目と3つの基本的要素、モデルカリキュラム (2021年3月策定) との関連を整理

【大学等全体のプログラム】【学部・学科単位のプログラム】共通

④ 対象となる学部・学科名称

文学部、経営学部、国際教養学部

⑤ 修了要件

プログラムを構成する科目a(2単位)と科目b(2単位)の合計4単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数 2 科目 4 単位 履修必須の有無 令和8年度までに履修必須とする計画

【令和6年度認定より追加】
プログラムを修了するために必要科目数を記載

プログラムを修了するために必要な単位数を記載

修了要件は具体的に、分かりやすく記載すること

履修者全員が、必要な要素を必ず網羅する修了要件となっていること

⑥ 応用基礎コア「1. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目
科目a	2	○	○	○			
科目b	2	○			○		

シラバスに記載の単位数と必ず整合させる

プログラムを修了するために履修することが必須の科目は「必須」に○を付すこと

どの学生も卒業するに当たって本プログラムの修了が必須となっているか、または予定があるかを選択

<応用基礎レベル> 3つの基本的要素と、モデルカリキュラム（2021.3）の対応箇所

項目	3つの基本的要素	モデルカリキュラム（2021.3） 対応箇所
I	データ表現とアルゴリズム： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、A I を実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎
II	A I ・データサイエンス基礎： A I の歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にA I を活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するA I 基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AI の歴史と応用分野 3-2. AI と社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-9. AI の構築と運用
III	A I ・データサイエンス実践： 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・A I 活用 企画・実施・評価」から構成される。	項目I及びII AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）<データ・AI 活用 企画・実践・評価>

認定教育プログラムは「3つの基本的要素」と「モデルカリキュラム」の各項目を、

プログラムを構成する授業科目により網羅していることが要件

(様式 1) 【参考】生成AIに関連する授業内容について

- 授業科目に取り入れている、または、取り入れる計画があるものについて、該当があれば記載
- 各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定の要件とはならない

【参考】

㊦ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**教理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 教理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)における、コア学修項目3-5「生成」の内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

科目aの○○に関する授業の中で、生成AIの◆◆について解説し、……。

科目eの△△に関する授業の中で、生成AIを実際に使用し、……。

○ 各科目の講義内容をモデルカリキュラムの<キーワード (知識・スキル)>と関連付けて整理

(例) 応用基礎レベルの「I.データ表現とアルゴリズム」

㊦ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「科目a」(1回目) ・代表値(中央値、最頻値)、分散、標準偏差「科目a」(2回目) ・確率分布、正規分布「科目a」(2回目)
1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「科目a」(3回目) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「科目a」(4回目)
2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像など)「科目b」(1回目)

講義内容として、以下を記載:

- ・該当するキーワード(知識・スキル)
- ・授業科目名称
- ・講義の何回目で対応しているか

1. データサイエンス基礎

キーワード(知識・スキル)についてはモデルカリキュラムの各学修項目より合致するものを選択する

全てのキーワード(知識・スキル)を網羅している必要はない

学修項目	キーワード (知識・スキル)	オプション (高度な内容)
1-6. 数学基礎 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率 ・代表値 (平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 ・相関係数、相関関係と因果関係 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度 ・確率分布、正規分布、独立同一分布 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイズの定理 ・点推定と区間推定 ・帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準
	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルと行列 ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積 ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積 ・逆行列 	<ul style="list-style-type: none"> ・固有値と固有ベクトル
	<ul style="list-style-type: none"> ・多項式関数、指数関数、対数関数 ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係 ・1変数関数の微分法、積分法 	<ul style="list-style-type: none"> ・2変数関数の微分法、積分法
1-7. アルゴリズム (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現 (フローチャート) ・並び替え (ソート)、探索 (サーチ) ・ソートアルゴリズム、バブルソート、選択ソート、挿入ソート ・探索アルゴリズム、リスト探索、木探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算量 (オーダー)

(様式 2) プログラムの履修者数等の実績について

○ プログラムの履修者・修了者の実績について、年度毎に記載

様式2
〇〇大学

プログラム開設年度より前の年度には、人数を計上しないこと

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 522人 女性 692人 (合計 1214人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度	
				履修者数	修了者数								
文学部	324	80	320	65	50	60	50						
経営学部	250	60	240	45	35	35	25					80	33%
国際教養学部	236	60	240	35	25	40	25					75	31%
工学部	404	100	400	100	100	100	100						50%

【令和6年度認定より追加】
 大学等全体の男女別学生数を記載
 応用基礎(学部・学科単位)の場合でも、大学等全体の人数を記載
 ※令和5年度学校基本調査で回答した令和5年5月1日時点の人数を記載

履修者数は履修を開始した年度に計上

修了者数は当該年度に修了要件を満たした者を計上
 左記の履修者数の内数ではない

【リテラシーレベル】【応用基礎レベル(大学等単位)】
 ・全ての学部・学科を記載
 ・2つ以上の学部・学科の学生が履修
 (文系学部を持つ場合は、履修者実績に留意)
 ・学部が1つの場合、その下の学科、課程別に記載
 (記載が1列にならないように注意)

【応用基礎(学部・学科単位)】
 ・対象となる学部・学科のみ記載

(様式3) 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

様式3				
大学等名		〇〇大学		
教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について				
① 全学の教員数	(常勤)	100	人 (非常勤)	100 人
② プログラムの授業を教えている教員数				20 人
③ プログラムの運営責任者				
(責任者名)	〇〇 〇〇	(役職名)	〇〇研究科長	
④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	〇〇委員会			
(責任者名)	〇〇 〇〇	(役職名)	〇〇研究科長	
⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称	〇〇(センターの設置規則、委員会の設置規則等)			

令和6年度に変更がある場合も、令和5年度時点の実績について記載

委員会・組織等は、リテラシー・応用基礎で同一の場合や、全学的な組織が兼ねている場合、既存の委員会・体制であっても問題ない

令和6年度以降は令和5年度の履修率より高くなる目標値を記載

リテラシープラスに申請する場合、履修率が3年以内に50%以上になる具体的且つ着実な計画が必要

履修必須のプログラムとして実施している(または予定がある)場合など、履修率が確実に増加する要素については、明確に記載すること

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の背景」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	40%	令和6年度予定	60%	令和7年度予定	80%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	1,200

具体的な計画

目標を実現するために、令和5年度より、授業時間内外での学習指導、質問を受け付ける仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポートを数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて実施し、学生のプログラム履修を促進している。また、令和6年度よりプログラムを構成する科目〇〇を全学必修にする計画である。… (500字以内)

※2024.3.26 水色マーカー部分を追記しました。応用基礎プラスについては要件ではありませんが、履修率の向上に向けた積極的な取り組みを期待します。

(様式4) 自己点検・評価について

		様式4
		大学等名 ○○大学
自己点検・評価について		
① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)		
○○センター		
(責任者名) ○○ ○○	(役職名) ○○センター長	
② 自己点検・評価体制における意見等		
自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況	○○部において、プログラムの履修・取得状況の分析を実施し、履修データ分析システムの活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握することができる。… (300字以内)	
学修成果	○○部において実施している学生調査のうち「○○」の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を数理・データサイエンス・AI教育研究センターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。… (300字以内)	

様式3に記載した、プログラムを改善・進化させるための委員会と同一とすることも可能

自己点検・評価の結果については、必ず各大学等のウェブサイトにおいて毎年度公表する必要がある

(様式 4) 自己点検・評価について

「我」を理解させること

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載

数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて学生アンケート及び提携企業からの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。… (300字以内)

【令和6年度認定より追加】

内容・水準を維持・向上することの一環として、社会動向を踏まえた教育内容・手法の見直しを行っている場合には、その取組や改善するための仕組みについて記載

(様式5) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

- 様式5はプラスに申請する場合のみ、提出
- プラスへの申請は、既に認定を受けている、もしくは、同時に認定にも申請している必要
- 様式5、取組概要 (PowerPoint1枚)、その他補足資料の記載内容を認定制度審査委員会において評価

様式5

【令和6年度認定より変更】

- ・様式5をWordに変更
- ・①～③の記載の全体で3ページ以内で作成
- ・応用基礎は大学等单位と学部・学科等单位の様式が異なるため注意

【令和6年度認定より変更】

記載要領において、特色ある取組の例として以下の観点を追加

- ・社会動向を踏まえ、新たな技術(生成AIなど)に係る教育内容・方法を授業に導入するなど、先導的で工夫・特色のある学修に取り組んでいる。

大学等名：〇〇大学

プログラム名：〇〇大学応用基礎プログラム (〇学部)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請単位	応用基礎レベル (学部・学科単位)
対象学部等	〇学部

① 授業内容

本プログラムは、「応用基礎レベル」の教育プログラムとして〇学部において必須のプログラムとなっている。さらに、本学においてエキスパートレベルの人材育成を目指す「〇〇プログラム」への学修の橋渡しとなる仕組みを構築している。

・分かりやすさについて

遠隔授業と対面授業を併用し、受講者がいつでも視聴可能で内容が多岐にわたるビデオ講義の活用により、

取組概要（ひな形様式）

- 令和6年度認定より、ひな形の様式にて作成
- 適宜、図や写真等を使用し、一枚にまとめる
- プラス選定に申請する場合、先導的で独自の工夫や特色を含めて作成

【令和6年度認定より変更】

大学等名や申請レベル等の基本情報を記載

大学等名	○○大学・高等専門学校／○○大学（◇◇学部）	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名		申請年度	令和 年度

取組概要

申請する教育プログラムの概要について、適宜図や写真等も挿入し、1ページにまとめて記載してください。
※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

以下の項目に関する内容を含めて作成してください。

- ・プログラムの目的
- ・身に付けられる能力
- ・開講されている科目の構成
- ・修了要件
- ・実施体制

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて、以下の内容を含めて作成してください。

- ・先導的で独自の工夫・特色

以下より、申請レベルを選択して記載。
・リテラシーレベル
・応用基礎レベル（大学等単位）
・応用基礎レベル（学部・学科等単位）

応用基礎レベル（学部・学科等単位）の申請の場合、「大学等名」には学部・学科等名まで記載してください。

【令和6年度認定より変更】

取組概要欄は、以下の項目に関する内容を含めて作成

- ・プログラムの目的
- ・身に付けられる能力
- ・開講されている科目の構成
- ・修了要件
- ・実施体制

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて、以下の内容を含める

- ・先導的で独自の工夫・特色

【令和6年度認定より変更】

スライドサイズは、「標準(4:3)」から変更しない

取組概要欄のフォントの大きさ、色などは変更可能

＜リテラシー・応用基礎 共通＞ 申請に必要な書類

○ 令和5年度までは、一部の必要書類の省略を可能としていたが、様式の変更やモデルカリキュラムの改訂、省略の判断の煩雑さを鑑み、**令和6年度より申請書類省略の運用をとりやめる**。リテラシーと応用基礎の認定を同時に申請する場合や、既に認定を受けており、プラス選定のみを申請する場合も、様式は全て提出すること。

(1) リテラシーレベルの必要書類

申請区分	様式1	様式2	様式3	様式4	様式5
リテラシーの認定	○	○	○	○	
リテラシーの認定とプラス選定	○	○	○	○	○
リテラシーのプラス選定のみ	○	○	○	○	○

(2) 応用基礎レベルの必要書類

申請区分	様式1	様式2	様式3	様式4	様式5
応用基礎の認定	○	○	○	○	
応用基礎の認定とプラス選定	○	○	○	○	○
応用基礎のプラス選定のみ	○	○	○	○	○

必要書類の詳細については、必ず「申請要領」をご確認ください

○ ロゴマークの使用

- ・ プログラムのHPや周知を行う広報物、修了証などに使用が可能
- ・ 使用時は認定期限、応用基礎レベル（学部学科単位）の場合は対象学部等を併記

○ プログラムの内容に変更が生じた場合

- ・ 変更後、変更が生じた年度内に「変更届」による手続きが必要
- ・ どのような場合に変更届が必要かは、最新の届出に関する提出要領を必ず確認
- ・ 令和6年度からプログラムの内容に変更がある場合でも、令和5年度までの実施に基づき記載し、変更後の内容は申請には含めないこと

○ 公表情報の更新

- ・ 認定後においても、毎年度の自己点検・評価を実施し、結果を必ずHP上において公表すること
- ・ プログラムの内容に変更が生じた場合、HP上の情報も更新すること

○ 履修者数等の実績は毎年度調査

- ・ 履修者・修了者数の実績については文部科学省より認定校へ調査を実施

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

URL : <http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>

- 平成29年度より活動開始。現在約300校の大学・高専が加盟
- 講義等に活用可能な教材や動画コンテンツを公開
- 各地域（ブロック）におけるワークショップ等を通じた情報提供

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム



ホーム | コンソーシアム概要 | 運営体制・活動 | トピックス | 活動アーカイブ | リンク | English



ご清聴ありがとうございました

認定制度に関するご質問は、

文部科学省ホームページの質問受付フォーム

(<https://forms.office.com/r/HQfqfpSR4P>)

よりお問い合わせください